

平成 23 年度

財団法人いわき市教育文化事業団決算書

(抜粋)

自 平成 23 年 4 月 1 日

至 平成 24 年 3 月 31 日

財団法人いわき市教育文化事業団

目 次

	ページ
・ 事業報告書	1
・ 決算報告書	11

事業報告書

目 次

概 況	ページ
1 総括事項 -----	3
2 議決事項 -----	4
業 務	
1 文化財部門	
(1) 文化財発掘調査 -----	5
2 施設部門	
(1) いわき市アンモナイトセンター -----	5
(2) いわき市考古資料館 -----	6
(3) いわき市立草野心平記念文学館及び草野心平生家 -----	6
(4) いわき市暮らしの伝承郷 -----	7
(5) いわき市生涯学習プラザ -----	8
(6) 福島県いわき海浜自然の家 -----	9
3 役員に関する事項 -----	9
4 職員に関する事項	
(1) 事務局 -----	10
(2) 施設 -----	10

概 況

1 総括事項

平成23年度の当財団の運営は、平成23年3月11日に発生しました東日本大震災及びその後の原発事故により、実施の見通しがたたなくなかった事業が相次ぎ、当初予算では約2,700万円の赤字という極めて厳しい環境の中でのスタートとなりました。

しかしながら、年度途中から市外地の文化財調査業務受託、さらに、福島県いわき海浜自然の家の指定管理者受託などが加わり、この結果、最終的には約1,700万円を超える黒字決算となりました。

文化財部門では、市内の文化財調査や緊急雇用創出基金事業などのほか、川俣町、下郷町に加え新たに矢祭町などの市外地調査を事業受託するなど、受託件数は昨年度と同じ14件でした。

施設部門では、11月から新たな指定管理施設として福島県いわき海浜自然の家が加わり、7施設の指定管理者として管理・運営の基本理念である、常に自己評価を行い、市民ニーズを的確に捉えた事業を実施するとともに、利用者の安全・安心と接遇の向上に努めてまいりました。

特に、東日本大震災により大きな被害を受けた施設においては、それぞれの施設ごとに利用休止及び利用時間や利用場所の制限をするなど、安全確保に万全を期すとともに、早期の復旧に努めました。

しかし、利用の制限に加えて風評被害による交流人口の減少も重なり、全施設ともに入館者数が大きく減少するという結果となりました。

出版事業では、全国的に報告書の刊行が注目されていた「八幡横穴群」を出版しました。また、震災により刊行が延期されていた小学校6年生の社会の教科書に即したいわきの歴史及び文化財などを紹介する資料集「いわきの歴史」を刊行しました。副読本としてふるさといわきを誇れる心の醸成に活用いただければと考えます。

普及活用事業は、当財団の有する専門的知識を有償提供し収益を計る目的で実施しており、市内の公民館などを対象に多くの講座を開催しました。

研修は、質の高い専門性とサービスの確保、接遇の向上、安全・安心な施設環境の確保を目的としており、施設での研修と職員が個々に行う自主研修を積極的に行ないました。

啓発広報事業として、文化財部門では餓鬼堂横穴群の遺跡報告会を開催するとともに、「文化財ニュースいわき」第67号を刊行しました。

9月の理事会において、公益法人制度改革に伴い公益財団法人への移行が承認されたことから、移行申請に向けた準備事務を進めております。

いまなお、原発事故による不透明な状況が続いておりますが、市民の負託に応えるべく、教育と文化の更なる振興に向け、職員一丸となって取り組んでまいります。

2 議 決 事 項

理事会	議案番号	件 名	提出年月日	議決年月日
第1回 (持ち回り)	第1号 第2号	平成22年度財団法人いわき市教育文化事業団決算の認定について 平成23年度財団法人いわき市教育文化事業団収支補正予算について	平成23年5月30日	平成23年5月30日
第2回	第1号 第2号	平成23年度財団法人いわき市教育文化事業団収支補正予算について 財団法人いわき市教育文化事業団公益法人制度改革に伴う公益財団法人への移行について	平成23年9月21日	平成23年9月21日
第3回	第1号 第2号	平成23年度財団法人いわき市教育文化事業団報酬・給与・退職手当及び旅費等に関する規程の改正について 平成23年度財団法人いわき市教育文化事業団収支補正予算について	平成23年12月21日	平成23年12月21日
第4回	第1号 第2号 第3号	財団法人いわき市教育文化事業団報酬・給与・退職手当及び旅費等に関する規程の改正について 平成24年度財団法人いわき市教育文化事業団事業計画について 平成24年度財団法人いわき市教育文化事業団収支予算について	平成24年3月22日	平成24年3月22日

業 務

1 文化財部門

(1) 文化財発掘調査

平成23年度に受託した事業は14件となった。事業内訳は、いわき市内は本調査2件(遺物整理含む)、試掘調査1件、遺物整理報告書作成8件の11事業である。他市町村では、本調査3件(遺物整理及び報告書作成含む)である。

当初予定した3件の事業が東日本大震災や福島第一原子力発電所事故の影響により中止となった。また、委託金額の増減や委託期間の延長となった事業が3件あった。この他、発掘調査面積の増や経費節減による委託金額の増減の事業が3件あった。

主な成果として本発掘調査では、円文(珠文)によって装飾された横穴が発見された餓鬼堂横穴群が特筆される。報告書は3冊刊行、出土品が県指定重要文化財である八幡横穴群の報告書刊行が含まれる。

2 施設部門

(1) いわき市アンモナイトセンター

平成23年度の入館者総数は、787名で昨年度比17,044名の大幅な減少となった。原発事故によって4～7月中旬まで休館の処置がとられたことやその後、館内の見学のみ再開されたが、来館者の主な目的である体験発掘が実施できなかったことに起因するものと考えられる。

また、従来屋外活動であった親子自然探訪教室を室内開催とし、内容も子どもの「理科離れ」防止につながり、理科(科学)に興味を持つように「おもしろ・ふしぎ理科教室」に変更して実施した。内容的には、はじめて室内で化石を含む岩ブロックを使用した「ミニ化石発掘」が予想以上の好評を博した。

さらに、昨年度から実施を検討していた市内の小中学校へ教育課程に沿った体験プログラムについては、地元小学校5・6年生の来館時に実施した。

小中学校の夏・冬休み期間に合わせた各企画展は、夏休み企画展「化石と私パート1、その出会いの話」は126名で昨年度比4,910名の減、冬休み企画展「化石と私パート2、私の宝物」は176名で昨年度比310名の減であった。

公開シンポジウムは、平成16年度から当センターが立地する双葉層群(化石)への理解を目的として実施してきた。さらに同20年度からは、久之浜地区の「小中学校連携推進事業」として久之浜中学校を会場に、地学や化石に関する教育課程がある小学6年生と中学1年生が出席して開催されてきた。本年度は、講演者に東京学芸大学准教授でフタバスズキリュウ学名命名者の佐藤たまき氏を迎え、学名命名にいたる研究の概要と子どもの頃の夢を大切にするという内容を予定していたが、同地区小中学校が避難対象となり当初の7月開催ができなかった。その後、11月に地元小中学校が

避難先から復帰した後も開催の可能性を追求したが、実施にはいたらなかった。

(2) いわき市考古資料館

平成23年度いわき市考古資料館の運営は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災による建物などの安全確認のため、年度当初から利用中止としていたが、安全が確認された4月7日市内の他施設に先駆け開館した。

震災および原発事故の影響により、来館者の主体となっていた学校や県外からの団体が大幅に減少し、利用者総数は11,762名と昨年度比2,021名の減であった。内訳は、入館者が10,420名で前年度比727名の減、出前講座などの館外利用者が26件1,342名と昨年度比で15件1,294名減となった。

企画展は、当初予定の企画展3回、ミニ企画展1回の計4回開催した。第3回企画展「平成23年度発掘速報展」は、装飾された横穴や貴重な遺物が発見された餓鬼堂横穴群に焦点をあて、その重要性について解説した。遺跡が津波で大きな被害を受けた薄磯地区に所在することから、地元の人々に明るい話題を提供することができた。

講座・講演会は、各種講座のほか、企画展に合わせた講演会や展示解説会など、6講座・9回開催した。中田横穴青空講座は、震災による見学施設の損傷により全6回ともに中止となった。

体験学習会は、4回21日間開催し、会期中1,725名が来館し、延べ958名が勾玉づくりや八二ワづくりなどを体験した。猛暑や台風などで体験者が落ち込んだ昨年度に比べて494名の増となった。

団体入館者は、38件1,298名で昨年度比37件1,095名の減となった。内訳は、見学だけの団体22件597名、見学と体験学習をおこなった団体16件701名である。

滋賀キッズミュージアムin福島 いわきが、夏休み最後の土・日曜日開催され、2日間で931名という多くの参加者で賑わった。

レファレンスとして、横浜市立博物館や栃木県立博物館などへの当館収蔵資料の貸し出し及び研究者などの資料調査に対応した。また、小学6年生の「夏休みの友」に、調べ学習の施設として当館が掲載されたことから、夏休み期間中多くの6年生が訪れ、展示品の解説や質問などに対応した。

学芸員資格取得のための実習生及び磐崎中学校や平第2中学校生徒の職場体験実習生の受け入れも行った。

このほか、各種研修への参加による職員の接遇及び質の向上に努めた。ホームページは、事業案内及び経過報告等を随時更新掲載し内容の充実に努めるなど、ハード・ソフト両面から市民に愛され親しまれる施設づくりに努めた。

(3) いわき市立草野心平記念文学館及びいわき市草野心平生家

年間来館者数は12,036名で、昨年比6,648名の減であった。

平成23年度は、東日本大震災の影響により、4月1日から5月2日まで利用休止し、5月3日より再開した。文学館は資料燻蒸のため、3月20日から24日まで臨時休館し、開館日数は279日間だった。生家の開館日数は、284日間だった。

いわき市立草野心平記念文学館

平成23年度は、夏、秋、冬と3つの企画展を開催した。

夏の企画展「長野ヒデ子絵本原画展 ぶんがくかんにいきタイ」では、「せとうちたいこさん」シリーズで知られる絵本作家・長野ヒデ子の世界を絵本原画で紹介し、作家本人による太鼓コンサート、えほんらいぶを開催した。

秋の企画展「新収蔵品展2011」では、平成19年度以降新たに収蔵した資料から、草野心平の戦争中の作品掲載誌、渋沢孝輔資料、いわき市が寄贈を受けた中野貞雄氏資料などを展示し、福島県立博物館赤坂憲雄館長による講演会を開催した。

冬の企画展「萩原朔太郎展」は、前橋文学館（群馬県）所蔵資料を借用し、日本の近代詩を確立した詩人萩原朔太郎の生涯と作品を、自筆資料、書籍、愛用の品々などで紹介し、併せて朔太郎と草野心平、朔太郎の長女葉子と心平の交友を紹介した。なお、平成23年度には、前橋文学館にて特別企画展「風邪には風 草野心平の前橋時代」が開催された。

その他の展示としては、東日本大震災の影響により、例年開催していた春の企画展が冬に順延となったことから、利用再開した5月3日から6月19日まで、平成22年度に実施した企画展の中から特に話題となった資料を紹介する「草野心平と石」を開催した。スポット展示は、約1週間の展示替え期間を除き、「草野心平と春」、「猪狩満直」、「河林 満」、「吉野せいと三野混沌」、「花岡謙二と山村暮鳥」、「草野天平」の6つを間断なく開催した。

普及活動では、恒例となった夜間開館期間のコンサートやクリスマスのえほんコンサートなどのほか、復興支援コンサートなどの会場となり、市民と支援者の交流の場を提供した。

講演会や朗読祭、文学館カレッジ、詩作講座などを開催し、文学研究成果の公表や創作活動の場にふさわしい事業を展開した。また、小川地区の史跡と自然を探訪する文学散歩、夜間開館期間に屋外を小川地区の子ども達が描いた竹灯ろうでライトアップするなど、文学館が建つ小川町住民との連携事業を展開した。

いわき市草野心平生家

平成23年度の入館者数は1,331名で、昨年比1,987名の減であった。

例年、「心平誕生日の市民朗読会」として開催してきた誕生日にちなんだ催しは、東日本大震災の影響で、地元学校の参加協力が困難となったことから、「心平誕生日の催し」として、参加者が心平について語る催しを開催した。草野心平生家は、生家ボランティアの会が解説を行っており、ワークショップ「カエルの折り紙をつくろう」では、ボランティアの会が講師を務め、市民との交流の場ともなった。

(4) いわき市暮らしの伝承郷

平成23年度の入園者数は、東日本大震災と原発事故の影響により、前半は大幅な減少となったが、後半から終盤に盛り返し、最終的には20,961名で、昨年度より1,573名の減となった。

伝承郷の中心的な事業である景観の復元・伝承・管理作業については、平成11年度に開園して以来、単なる園内管理にとどまらず、昔の暮らしぶりそのものの景観復元と伝承をコンセプトに実施してきたところである。今年度も、畑作・里山作り・庭木の手入れ・家屋の日常的な清掃・囲炉裏火

焚き・薪割りなどの幅広い項目にわたり実施している。

企画展は、第1回「磐城平城下の町」、第2回「伝承郷収蔵品展 震災と民具」、第3回「昭和の遊び展」、第4回「おひなさまとちりめん細工展」の4回開催した。これらの企画展開連事業として、それぞれに展示解説会などを実施した。

体験学習は、「民話の語り」・「百人一首」など予約なしで気軽に参加できるものや「樹皮の花かご作り」・「正月飾り作り」などの比較的技術を要するものなど、子どもから大人まで年齢層や古来からの年中行事を意識して企画し、通算21回実施した。ほかに、学校や子ども会の要望による「昔遊び」などの臨時体験学習も実施しており、極めて好評を得ることができた。

伝承郷講座は、民俗学講座「暮らしの伝承を学ぼう」5回、館長講座「暮らしの木曜講座」18回の合わせて23回の講話となった。

伝承郷行事では、「盆棚飾り」・「こと八日」・「農立て」・「正月飾り」など月々の伝承行事16項目を、古式にのっとり作成・展示した。また、「じゃんがら念仏踊り」や「獅子舞」、「会津万歳」などの伝統芸能の実演を行い、伝統行事の再現と実演による継承と伝承をはかった。これらの行事では、来園者のレポートをねらい、定例化を図っている。

小学生を対象とした「キッズ民話の語り部教室」は、子ども語り部による18期を迎えた。

市民の文化活動の場として定着している企画展示室の貸し出しについては、4月から6月にかけて予定していた7回の市民展が中止となっている。

このほか、ガイド等のボランティア研修会、いわき凧笛会による篠笛演奏会、民俗・歴史に関するレファレンス事業や民具の鑑定・収集なども実施している。

なお、今年度は緊急雇用創出基金事業として、農村風景復元・伝承事業を受託実施した。

(5) いわき市生涯学習プラザ

平成23年度は東日本大震災の影響により5月22日まで閉館を余儀なくされ、その後の利用再開にあたっては利用可能施設が一部に限定(大・小会議室、研修室)されたこともあり、利用者数は、昨年度より81,968人少ない36,286人であった。また、団体及びサークル等の社会教育関係団体の利用も、茶室・和室・体験学習室等の使用が出来なかったことから、申請件数は1,174件と昨年度の約3分の1の件数に留まった。

主催講座は、下半期より利用可能施設において講義形式の講座及びIT入門講座を中心に展開したが、特設キッズコーナーで毎月開催した子育て支援ボランティアによる「紙芝居・絵本の読み聞かせ」、いわきまなびあいバンク普及活用事業の一環として毎月開催した「IT講習会・IT相談会」は好評を博した。また、市内の公民館(大浦・草野・夏井公民館)との連携で「いわき再発見講座」を事業団の普及活用事業として昨年度に引き続き開催した。加えて、サークルが一般市民を対象として企画した「サークル企画講座(水墨画・水彩画・コーラス体験等)」、小・中学生を対象として企画した「学校体験講座(絵はがき・パソコン・フォークダンス等)」は、サークル会員と市民や異世代との交流を深める場となり、工夫を凝らしながら出来る範囲内で各種事業を展開した。

また、いわきヒューマンカレッジ(市民大学)は受講生の大幅減が懸念されたが、昨年度とほぼ同数の422名の入学生を迎え、「震災からの復興」をテーマに4学部(生活援助学部・地域づくり学部・地球環境学部・いわき学部)を開催した。

こうした事業の展開にあたっては、ホームページや広報いわきのほかに、講座ごとの案内チラシをとおして情報の発信や提供を行い、利用者懇談会やアンケート調査でモニタリングを重ね、今日の課題や市民の学習ニーズを把握しながら、市民目線に立った効率的な管理運営に努めた。

(6) 福島県いわき海浜自然の家

平成23年11月1日より福島県いわき海浜自然の家の管理運営を開始した。東日本大震災に伴う被災のため、冒険の森・野営場・多目的広場・フィールドアスレチック・トリムランドの施設利用が制限され、また海浜活動もできないため、本館とつどいの広場に限定した利用となった。

運営再開をアピールするため、施設の一般開放(オープンイベント、復興祭)を実施した。県民にスポーツやクラフト体験の場を提供するとともに、さまざまな企画事業を実施した。さらに、当事業団が指定管理を実施していることを生かし、公民館や生涯学習プラザとの連携事業を実施した。

利用者総数は5ヶ月間で11,825名と平成21年度同期比5,397名の増となった。今年度は震災の影響により屋外で思うように遊べないことから、保育所・幼稚園・スポーツ少年団などの体育館利用が目立った。

企画事業は「オープンイベント」「復興祭」「親子のつどい」「伝承遊び」「クラフトのつどい」「森の音楽会」のほか、「ウインターフェスティバル」は会津自然の家との共催で実施した。

他施設との連携事業として、公民館と連携した「いわき再発見講座」は3公民館と実施した。また、生涯学習プラザと連携して「市民講師養成実践講座」を実施した。

各種企画事業においては広報チラシ・ポスターの配付をはじめ、ホームページによる事業案内及び報告等を随時掲載し、広く県民への周知に努めた。

このほか、共催事業として「OECD東北スクール」第1回スプリングスクールを実施した。OECDパリ本部や文部科学省からも来所があり、施設環境及び施設運営等に高い評価をいただいた。

各種研修による職員の接遇及び資質の向上に努め、県民に愛され親しまれる施設づくりに努めた。

3 役員に関する事項

理事9名、監事2名

区分	年月日	役職名・氏名	備考
退任	平成24年3月31日	理事長 伊東正晃	(いわき市副市長)
		理事 木村清	(いわき市総務部長)

4 職員に関する事項

平成24年3月31日現在

(1) 事務局

(括弧内数字：兼務職員数、単位：名)

区分	事務局長	事務局次長 専門研究員	係長 主任研究員	副主任研究員	事務主任	主事 研究員	嘱託職員	日々雇 用職員	計
事務局	1(1)	2(1)	-	-	-	-	-	-	3(2)
企画管理係	-	-	1	-	-	-	1	4	6
調査第一係	-	1	1	1	-	1	2	-	6
調査第二係	-	-	(1)	1	-	-	-	25	26(1)
計	1(1)	3(1)	2(1)	2	-	1	3	29	41(3)

(2) 施設

(括弧内数字：兼務職員数、単位：名)

区分	館長 副館長	次館長 主任主査 専門学芸員 専門指導員	係長 主任研究員 主任学芸員	主査 副主任研究員 副主任学芸員	事務主任	主事 学芸員 指導員	嘱託職員	日々雇 用職員	計
アンモナイト センター	1	1	-	-	-	-	-	1	3
考古資料館	(1)	-	(2)	(1)	-	-	-	1	1(4)
文学館	2	-	-	2	-	-	-	3	7
伝承郷	1	1	-	2	-	-	1	8	13
生涯学習 プラザ	1	-	-	2	-	1	1	6	11
いわき海浜 自然の家	(1)	2	-	-	-	2	4	5	13(1)
計	5(2)	4	(2)	6(1)	-	3	6	24	48(5)
合計	6(3)	7(1)	2(3)	8(1)	-	4	9	53	89(8)

決 算 報 告 書

目 次

		ページ
1 貸借対照表	-----	1 3
2 正味財産増減計算書	-----	1 4
3 財産目録	-----	1 5

貸借対照表

平成24年3月31日現在

(単位円)

科 目	当年度	前年度	増減
資産の部			
1 流動資産			
現金預金	141,247,721	87,587,604	53,660,117
未収金	21,764,563	22,209,567	445,004
前払金	43,207	0	43,207
仮払金	0	261,477	261,477
未経過通信運搬費	2,020	2,020	0
未経過租税公課	21,600	5,200	16,400
製品	70,646	59,096	11,550
流動資産合計	163,149,757	110,124,964	53,024,793
2 固定資産			
(1) 基本財産			
投資有価証券	10,000,000	10,000,000	0
基本財産合計	10,000,000	10,000,000	0
(2) その他の固定資産			0
器具・備品	1,386,092	1,342,407	43,685
電話加入権	449,904	449,904	0
投資有価証券	35,100	11,900	23,200
その他固定資産合計	1,871,096	1,804,211	66,885
固定資産合計	11,871,096	11,804,211	66,885
資産合計	175,020,853	121,929,175	53,091,678
負債の部			0
1 流動負債			0
預り金	2,993,062	2,539,003	454,059
前受金	0	0	0
未払金	67,836,336	39,026,736	28,809,600
未払消費税	7,456,900	4,241,100	3,215,800
未払法人税等	3,000,000	72,000	2,928,000
流動負債合計	81,286,298	45,878,839	35,407,459
2 固定負債			0
固定負債合計	0	0	0
負債合計	81,286,298	45,878,839	35,407,459
正味財産の部			0
1 指定正味財産			0
受取出捐金	10,000,000	10,000,000	0
指定正味財産合計	10,000,000	10,000,000	0
(うち基本財産への充当額)	(10,000,000)	(10,000,000)	0
2 一般正味財産			0
一般正味財産合計	83,734,555	66,050,336	17,684,219
正味財産合計	93,734,555	76,050,336	17,684,219
負債及び正味財産合計	175,020,853	121,929,175	53,091,678

正味財産増減計算書総括表

平成23年4月1日から平成24年3月31日まで

(単位円)

科 目	当年度	前年度	増減
一般正味財産増減の部			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	68,831	116,200	47,369
事業収益	463,140,790	447,077,797	16,062,993
a 文化財調査事業収益	160,497,750	208,821,117	48,323,367
b 施設管理運営事業収益	301,743,900	237,194,000	64,549,900
c 出版事業収益	781,140	774,680	6,460
d 普及活用事業収益	118,000	288,000	170,000
受取寄付金	0	0	0
雑収益	4,431,363	2,004,576	2,426,787
経常収益計 (ア)	467,640,984	449,198,573	18,442,411
(2) 経常費用			
事業費	428,293,041	417,636,542	10,656,499
a 文化財調査事業費	145,162,341	182,322,726	37,160,385
b 施設管理運営事業費	282,686,762	234,612,811	48,073,951
c 出版事業費	429,938	690,053	260,115
d 普及活用事業費	14,000	10,952	3,048
管理費	21,663,724	21,152,829	510,895
a 一般管理費	20,887,254	20,265,061	622,193
b 研修費	776,470	538,058	238,412
c 啓発広報費	0	349,710	349,710
経常費用計 (イ)	449,956,765	438,789,371	11,167,394
当期経常増減額 (ア-イ)	17,684,219	10,409,202	7,275,017
2 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計 (I)	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計 (オ)	0	0	0
当期経常外増減額 (I-オ)	0	0	0
当期一般正味財産増減額 (キ)	17,684,219	10,409,202	7,275,017
一般正味財産期首残高 (ク)	66,050,336	55,641,134	10,409,202
一般正味財産期末残高	83,734,555	66,050,336	17,684,219
指定正味財産増減の部			
基本財産運用益	84,631	116,200	0
一般正味財産への振替 (コ)	84,631	116,200	31,569
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高 (シ)	10,000,000	10,000,000	0
指定正味財産期末残高	10,000,000	10,000,000	0
正味財産期末残高	93,734,555	76,050,336	17,684,219

財 産 目 録

平成24年 3月31日現在

(単位円)

科 目	金		額
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金			
小口現金	233,279		
郵便振替			
郡山地方郵便局	819,403		
普通預金	(120,195,039)		
(株)東邦銀行	112,069,504		
(株)東邦銀行	0		
(株)東邦銀行	0		
いわき信用組合	1,951,336		
いわき信用組合	6,017,305		
(株)大東銀行	77,178		
(株)福島銀行	79,716		
定期預金	(20,000,000)		
(株)大東銀行	10,000,000		
(株)福島銀行	10,000,000		
未収金	21,764,563		
前払金	43,207		
未経過通信運搬費	2,020		
未経過租税公課	21,600		
製品	70,646		
流動資産合計		163,149,757	
2 固定資産			
(1) 基本財産			
投資有価証券	10,000,000		
(株)東邦銀行 利付国債5年			
基本財産合計	10,000,000		
(2) その他の固定資産			
器具・備品	1,386,092		
電話加入権	449,904		
投資有価証券	35,100		
額面超過購入額未償却額			
その他固定資産合計	1,871,096		
固定資産合計		11,871,096	
資産合計			175,020,853
II 負債の部			
1 流動負債			
預り金	2,993,062		
前受金	0		
未払金	(67,836,336)		
人件費	16,393,741		
物件費	51,442,595		
未払消費税	7,456,900		
未払法人税等	3,000,000		
流動負債合計		81,286,298	
2 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			81,286,298
正味財産			93,734,555